MOVE THE WORLD FORWARD MITSUBISHI HEAVY INDUSTRIES GROUP

マテリアリティ
2024年度の進捗状況・取組トピックス

三菱重工業株式会社

© MITSUBISHI HEAVY INDUSTRIES, LTD. All Rights Reserved.

三菱重工

マテリアリティ「脱炭素社会に向けたエネルギー課題の解決」

三菱重工

全社目標	進捗モニタリング指標（KPI）	取組範囲	2024年度の進捗状況・取り組みトピックス
三菱重工グループのCO_2排出削減 Scope1・2を、2040年 Net Zero	事業活動におけるCO_2総排出量(Scope 1・2)を2030年までに50%削減し(2014年比)、2040年にNet Zeroを達成する	三菱重工グループ（国内・海外）	• 2024年のCO_2排出量に関し、2014年比で47%削減（一部概算値を含む）を見通している。 • CO_2排出削減の取組みを先行した三原製作所においては、カーボンニュートラルソリューションを挑戦的に集約して実装し、段階的にカーボンニュートラルを実現する工場「カーボンニュートラルトランジションハブ三原」として取組みを継続している。
2040年までにバリューチェーン全体を通じた社会への貢献 Scope3+CCUS削減貢献を、2040年 Net Zero	バリューチェーン全体の排出量(Scope3+CCUSによる削減貢献)を2030年までに50%削減し(2019年比)、2040年にNet Zeroを達成する	三菱重工グループ（国内・海外）	• 2024年のCO_2排出量（Scope3カテゴリ11）に関し、2019年比で36%削減（一部概算値を含む）を見通している。
	2040年までにエネルギー供給側の脱炭素化に資する製品・サービスを開発する（エナジートランジション）	三菱重工グループ（国内・海外）	• 高砂水素パークでは、中小型のH-25形ガスタービンを用いて水素専焼での実証運転を開始した。また次世代の高効率水素製造技術である高温水蒸気電解(SOEC※1)デモ機の運転も開始した。 • KM CDR Process™※2を適用した欧州初のイタリアEni社向けのCO_2回収プラントが完工・稼働開始した。また、需要拡大の見込まれる国内CCUS市場への対応力を強化すべく千代田化工建設と包括ライセンス契約を締結するなど、パートナリングを拡大した。 • 革新軽水炉"SRZ-1200"の基本設計を概ね完了し、許認可向け各種実証試験も順調に進捗中。また、規制予見性向上に向けたNRA※3との新設規制に関する意見交換も開始した。日本政府が推進する高速炉実証炉および高温ガス炉実証炉については、設計・開発を担う中核企業として概念設計を推進中。
	2040年までにエネルギー需要側の省エネ、脱炭素化、省人化に資する製品・サービスを開発する（社会インフラのスマート化）	三菱重工グループ（国内・海外）	• 小型CO_2回収装置「CO_2MPACT™」シリーズのラインアップを刷新。標準・モジュール化を最大化し、工事コスト低減や工期短縮を可能とする「CO_2MPACT™フルモジュール」を上市した。 • 電化・データセンター領域における事業化に向け、当社グループの有する電源・冷却・制御システムを統合したワンストップソリューションを提供する体制の整備・強化を進めた。
	炭素循環に資する新製品・サービスを開発・実証する	三菱重工グループ（国内・海外）	• 廃棄物の処理・利活用（加水分解）に向けた実証試験や、持続可能な航空燃料（SAF）をはじめとしたカーボンニュートラル燃料を高効率かつ安価に製造可能な技術開発等に取り組んでいる。

© MITSUBISHI HEAVY INDUSTRIES, LTD. All Rights Reserved.

※1 Solid Oxide Electrolysis Cell　※2 当社が関西電力株式会社と共同開発したCO_2回収技術　※3 Nuclear Regulation Authority 原子力規制委員会

マテリアリティ「AI・デジタル化による社会の変革」

全社目標	進捗モニタリング指標（KPI）	取組範囲	2024年度の進捗状況・取り組みトピックス
顧客や利用者に寄り添った便利でサステナブルなAI・デジタル製品の拡充	顧客課題解決（エネルギー需給設備の運用最適化、等）に対応する高度なAI・デジタルソリューションの新規開発件数(サービス、製品、R&D)を段階的に引き上げる	三菱重工グループ（国内・海外）	• 先進的な研究開発に取組み、その成果をSBUに横通し展開して、SBUのAI・デジタル製品/サービス等のソリューションの開発を促進。 • 物流自動化、統合監視、エネルギーマネジメントに関連したプロダクトの横通し展開とその実運用を開始。
クリエイティブなAI・デジタル製品を生み出すための環境づくり	社員のクリエイティブな時間・環境に対する認識を向上させる	三菱重工グループ（国内・海外）	クリエイティブな環境として、以下を実施。 • 三菱重工グループ全体で22,000人のDI(デジタルイノベーション)人材を育成する計画。各種教育を実施し、目標の60%となる14,000人を育成。 • AI・デジタル製品の試行環境を立上げ、概念実証(PoC)の遂行を促進。 • デジタル化による顧客接点と従業員業務の変革を推進。成果を標準化し、4SBUへ提供を開始。

© MITSUBISHI HEAVY INDUSTRIES, LTD. All Rights Reserved.

※ YHH（Yokohama Hardtech Hub）：三菱重工が横浜・本牧で運営するものづくりの共創空間

マテリアリティ「安全・安心な社会の構築」

三菱重工

全社目標	進捗モニタリング指標（KPI）	取組範囲	2024年度の進捗状況・取り組みトピックス
製品・事業/インフラのレジリエント化	各種災害による影響評価を実施し、レジリエンス性を追求した設計・技術の開発、実用化を推進する	三菱重工グループ（国内・海外）	• ３つのレジリエンス（エネルギー/データ/サプライチェーン）の視点で平時/災害時の両方に価値を提供できる製品・サービスのコンセプトを立案し、お客様への提案を開始。 • 津波、台風、豪雨、高潮などの防災シミュレーションを活用した災害リスク評価技術のお客様設備や自治体への展開検討を開始。 • 海外拠点のBCM（事業継続マネジメント）の推進着手。
製品・事業/インフラの無人化・省人化	製品・事業/インフラの遠隔/自動運転、遠隔/自動検査・点検に向けた技術開発、実用化を推進する	三菱重工グループ（国内・海外）	• 物流知能化ソリューションの開発を推進。 • データセンタ向け省エネ自動化システムの開発を推進。 • 防衛装備品の無人機開発を推進。 • ごみ焼却プラントの遠隔監視・運転支援システム(MaiDAS)の実機展開（国内11件、海外1件に採用）と機能向上を推進。 • 紙工機械知能化運転システムの開発を推進。 • 製造現場向け人協働ロボットのプラットフォーム開発を推進。
三菱重工全製品の継続的なサイバーセキュリティ対策の深化	サイバーセキュリティ技術の開発、実用化を推進する	三菱重工グループ（国内・海外）	• サイバーセキュリティ関連の研究開発は継続して実施中。 • 防衛やエナジー等の事業に「InteRSePT」や「Netmation Protect Pack」等の当社セキュリティ技術を継続的に提供。 • 社内工場のセキュリティ耐性強化のため、ネットワークセキュリティ検知装置の評価検証を、相模原・YHH・小牧北などで実施。 • 経営層向けインシデント訓練及び製品担当者向けインシデント訓練を実施。 • 製品・制御システムで利用されているソフトウェアのセキュリティ診断を実施。

© MITSUBISHI HEAVY INDUSTRIES, LTD. All Rights Reserved.

マテリアリティ「ダイバーシティ推進とエンゲージメントの向上」

三菱重工

全社目標	進捗モニタリング指標（KPI）	取組範囲	2024年度の進捗状況・取り組みトピックス
多様な人材による新たな価値創出	2030年までに役員に占める女性比率を30%以上にする	三菱重工単体	• 将来の幹部候補社員に対して、HR部門と事業部門が連携し、計画的な指導、育成を継続している。 • 女性社員がキャリアを継続するため、育児や介護などに配慮したさまざまな支援制度の拡充に取り組み、仕事と家庭を両立しやすい職場環境・組織風土の構築を推進している。
	2030年までに管理職に占める女性比率を2倍（2021年度比）にする	三菱重工グループ（国内・海外）	
	三菱重工グループ人権方針に基づき、グループ社員に対する教育の実施等を通じて、多様性の尊重に関する意識の向上を図る	三菱重工グループ（国内・海外）	• 「三菱重工グループにおける人権尊重」に関する教育コンテンツ(e-ラーニング)について、初回の実績を踏まえ内容の充実化を図ったうえで、海外含む三菱重工グループ約67,000名が受講した。
安全で快適な職場の確保	重大災害件数をゼロにする	三菱重工グループ（国内）	• 2024年度は墜落災害による協力社員の死亡災害が3件発生。 • 墜落防止対策（手摺り・親綱）の確実な実施と墜落制止用器具の確実な使用について徹底を図った。
	毎年度の休業災害度数率を、同業種の事業者の平均以下にする		• 休業災害度数率は、同業種の事業者平均と同じ数値になった。 • AIを活用した災害発生予兆検知や「動機的原因」要素を取り入れた災害真因分析手法を運用するとともに、海外グループ会社からの安全管理データ収集プロセス・様式等のルールを確立した。
社員を活かす環境づくりと健やかで活力にあふれ社会に貢献できる人材づくり	社員意識調査による「エンゲージメント」スコアを2030年度までにグローバル平均以上に向上させる	三菱重工グループ（国内・海外）	• 2025年1月に第5回目となる三菱重工グループ社員意識調査を実施した。 • 社長タウンミーティングを国内２拠点で開催した。 • パルスサーベイツールの全社展開および運用改善を継続している。

© MITSUBISHI HEAVY INDUSTRIES, LTD. All Rights Reserved.

マテリアリティ「コーポレートガバナンスの高度化」

三菱重工

全社目標	進捗モニタリング指標（KPI）	取組範囲	2024年度の進捗状況・取り組みトピックス
取締役会審議のさらなる充実	取締役会に占める独立社外取締役の割合50%以上	三菱重工単体	• 独立社外取締役の割合を50%（12名中6名）とし、意思決定の迅速化と監督機能の強化を図っている。
	取締役会の実効性を毎年評価し、実効性を確保・向上させる		• 2024年度の取締役会実効性評価として以下の取組みを行った。 ▶ 全取締役に対してアンケート調査を実施した。 ▶ 独立社外取締役会合で議論し、取締役会に実効性評価結果を報告した。 ▶ 評価結果の開示文案と今後の対応方針を取締役会で決定した。 合わせて2025年度の議題スケジュールの検討を開始した。
法令遵守と誠実・公平・公正な事業慣行の推進	重大な法令違反・不祥事ゼロ	三菱重工グループ（国内・海外）	• 重大な法令違反や不祥事は無かった。 • 社内への啓発活動としてコンプライアンス遵守に役立つ事例を月次で公開した。 • 海外グループ会社向けに、該当地域固有のコンプライアンス関連情報を共有し、発生防止に努めた。 • 海外グループ会社におけるコンプライアンス通報窓口の設置を徹底している。
	風通しの良い組織風土の醸成に向けた活動を継続する		• 国内外の社員向けに、以下のコンプライアンス推進教育を実施した。 ▶ 国内：Eラーニング・ディスカッション研修・階層別教育 ▶ 海外：Eラーニング
CSR調達のグローバルサプライチェーンへのさらなる浸透	サステナブルなサプライチェーン構築に向け、パートナーと協働でサステナビリティ・CSR調達活動を推進する	三菱重工グループ（国内・海外）	• 継続的に一定額の発注がある国内・海外のパートナー企業にCSRアンケートを実施し、「三菱重工グループサプライチェーンサステナビリティ推進ガイドライン」への同意を取得した。
	サステナブルなサプライチェーン構築に向け、パートナーへサステナビリティ・CSR調達教育を継続的に実施する		• パートナー企業に定例で依頼するCSRアンケート発信時にCSR調達教育資料を合わせて配信し、各社内への理解・浸透についての確認を行った。 • 事業説明会・パートナー会議の場でCSR調達教育を実施した。
非財務情報の説明機会創出	サステナビリティに関する説明会の年１回実施を継続する	三菱重工グループ（国内・海外）	• 原子力事業に関する工場見学会（2025年3月）を開催するなど、製品・技術・サービスを通してカーボンニュートラル実現に貢献することを説明した。

© MITSUBISHI HEAVY INDUSTRIES, LTD. All Rights Reserved.

MOVE THE WORLD FORWARD MITSUBISHI HEAVY INDUSTRIES GROUP

三菱重工